

鳥取県和牛ビジョン

平成21年4月 策定

平成23年6月 改定

平成25年4月 改定

鳥 取 県

【目 次】

- I はじめに
- II 改定によせて
- III 和牛ビジョンの概要と生産者・関係者の役割分担
- IV 目指す和牛産地の姿（平成35年目標）
 - 1 地域農業を支える和牛繁殖経営
 - 2 特産品としてブランド化される鳥取和牛
 - 3 生産者、農業団体、行政が一体となった和牛振興
 - 4 目標数値等

- V 展開方向
 - 1 産肉能力、繁殖能力の改良
 - (1) 全国トップレベルの種雄牛造成
 - (2) 農家の所有する雌牛の改良
 - 2 生産基盤の拡大・強化と経営体質の強化
 - (1) 繁殖雌牛、子牛出荷頭数の増加
 - (2) 肉用牛出荷頭数の増加
 - (3) 経営体質の強化
 - 3 鳥取和牛のブランド化の推進
 - (1) 特長ある高品質和牛肉の安定生産
 - (2) 地域団体商標登録制度を活用したブランド化
 - (3) ブランド力向上に向けた全共対策

（資 料）

- 1 主な支援策（平成25年度）
- 2 規模別農家戸数の推移
- 3 肉用牛飼養者の年齢構成の推移
- 4 和子牛セリ価格の推移、枝肉価格の推移
- 5 県内の和牛繁殖頭数、和子牛セリ上場頭数の推移
- 6 肉質等級4等級以上率の推移（鳥取県、全国）
- 7 和牛肥育牛出荷頭数の推移
- 8 県有種雄牛のシェア
- 9 鳥取県現場後代検定牛の成績一覧（H15～H24）
- 10 けい養中種雄牛および種雄候補牛一覧
- 11 試験種付けにおける種付け時の母牛の年齢構成
- 12 供用中繁殖雌牛の育種価及びそのトレンドから予測した育種価
- 13 供用中繁殖雌牛の血統構成（H15, H21, H24）
- 14 セリ上場牛におけるM牛（粗飼料多給型育成子牛）の割合
- 15 受精卵産子の生産頭数およびレシピエント（受卵牛）の品種
- 16 「鳥取和牛オレイン55」認定状況

I はじめに

鳥取県は、全国に先駆けて和牛の登録制度に取り組むなど日本の和牛改良をリードし、因伯牛は全国の和牛改良に貢献してきました。早熟・早肥の特徴をもった因伯牛でしたが、近年、肉質面での改良の遅れから以前ほどの高い評価を受けられなくなっています。しかし、平成19年度に開催された「和牛博覧会 in 鳥取」をきっかけとして「鳥取和牛」が再評価されつつあります。

和牛は、鳥取県の有望な特産品として注目されていますが、ブランドの確立には品質、量とも十分とはいえません。本県は子牛、肉牛とも生産規模が小さいことから、生産基盤の強化を図ることが大きな課題です。また、ブランド化を図るため、特色のある産地づくりの取り組みも必要です。

景気状況等による子牛価格、枝肉価格の変動はあるものの、消費における安心安全でおいしい和牛肉への根強いニーズは変わりません。生産現場においては基盤強化、一層の生産コスト低減、品質向上を図るとともに、流通場面においては差別化によるブランドづくりを強化していく必要があります。このため、この和牛ビジョンは鳥取県が目指す将来の和牛産地の姿を示し、目標に向けた展開を図ることにより和牛王国鳥取の復活を進めるものです。

和牛ビジョンは目標達成を10年後としています。5年ごとに開催される「全国和牛能力共進会」を成果確認の機会と位置付け、2012年の長崎大会時に成果の検証と目標の見直しを行うこととします。目標達成には、和牛農家の強い意欲、農協等関係団体の組織的な取り組み及び行政の強い支援が不可欠であり、それぞれが連携して役割を履行し、一丸となって取り組むものとします。

Ⅱ 改定によせて

平成21年4月に和牛ビジョンを策定してから約4年が経過しました。この間和牛ビジョンの目標を達成するために、生産者や農協等各関係団体の協力の下で、「和牛再生促進事業」「第10回全共対策事業」等で支援を行ってきました。その甲斐もあって、平成23年2月に和牛肉のおいしさの基準で新たにブランド化した「鳥取和牛オレイン55」が発表されたことや昨年10月に長崎県で開催された第10回全国和牛能力共進会の肉牛の部の第9区で第1回大会以来の上位入賞を果たしたことは皆様も記憶に新しいかと思えます。

しかしながら、繁殖農家の高齢化の進展や一部大規模繁殖農家の経営中止などで大きく和牛生産基盤が大きく揺らいでいるのも事実です。

さらに、2月1日から牛肉の輸入月齢規制の緩和やTPPへの日本の参加問題など今後の先行きはますます不透明感を増しています。そうした中、本県のような生産規模の小さな県は今まで以上に特色ある産地づくりを進める必要があります。

今回の改定は、前述した第10回全国和牛能力共進会長崎大会の成果と反省を踏まえた上で「和牛王国」復活のために、目標や役割を見直しました。2017年の第11回全国和牛能力共進会宮城大会で優秀な成績を収め、「和牛王国」の復活をアピールするために、今まで以上の和牛農家の意欲、農協等各関係団体の更なる連携と行政の強い支援により、それぞれが連携して役割を実行して、一丸となって目標を達成するように取り組むものとしします。

次回宮城大会後に成果の検証と目標の見直しを行う際には、「和牛王国」復活ではなく、「和牛王国」の更なる繁栄のためのものとなるように頑張っていきたいと思えます。

Ⅲ 和牛ビジョンの概要と生産者・関係者の役割分担

目指す和牛産地の姿（平成35年目標）

～ 全国に誇れる「和子牛」、「和牛肉」を生産する鳥取県 ～

地域農業を支える和牛繁殖経営

- ・ 全共で優秀な成績を収めることで、和子牛が市場で高く評価される。
- ・ 大規模の専業経営、中小規模の複合経営及び受精卵移植を活用した酪農家との連携により、子牛生産頭数が安定している。
- ・ 水田等への和牛放牧、自給飼料の生産が行われ、農地の保全管理に役立っている。

特産品としてブランド化される鳥取和牛

- ・ 全共で優秀な成績を収めることで、全国トップレベルのブランドと認識される。
- ・ 地元・首都圏・や京阪神市場へ定時・定量出荷される。
- ・ 県内で広く食され、旅館、ホテルで観光客へ提供される。
- ・ 安心・安全な高品質で美味しい和牛肉ブランドとして評価される。

やらいや和牛プロジェクト会議で進行管理

各地区（農協単位）での実践、点検、改善

繁殖農家の取り組み

和子牛生産頭数の増加 2,500頭→4,000頭
（うち受精卵移植産子 350頭 → 1,000頭）
和牛繁殖雌牛頭数 3,000頭→ 5,000頭
和子牛セリ価格 全国平均以上

産肉能力、繁殖能力の改良と全共対策

- 県内雌牛の能力アップ
 - ・ 県外からの優良な雌子牛の計画的な導入
 - ・ 優秀な雌子牛の確実な県内保留
- 全共での優秀成績獲得による子牛市場の評価向上
 - ・ 全共出品に取り組む生産者の増加、出品技術向上

生産基盤の拡大・強化

- 繁殖雌牛頭数の増加、子牛出荷頭数の増加
 - ・ 受精卵移植を活用した和子牛生産の定着
 - ・ 規模拡大、後継者育成、新規参入者の確保
 - ・ 公共育成牧場を活用した規模拡大
 - ・ 高齢者、女性による和牛繁殖牛の飼育の拡大
- 健康な子牛の生産と育成管理の適正化
 - ・ 購買者の求める子牛を生産、育成
 - ・ 病気に罹患していない子牛の生産、育成

経営体質の強化

- 生産コストの低減
 - ・ 水田、耕作放棄地等を活用した和牛放牧の実施
 - ・ 飼料用稲・飼料用米など自給飼料の生産拡大

肥育農家の取り組み

肉牛出荷頭数の増加 3,600頭→5,000頭
肉質等級「4」以上割合の向上 51% → 80%
県内産子牛の県内肥育の推進 36% → 50%
鳥取和牛オレイン55発生頭数 300頭 → 1,000頭

生産基盤の拡大・強化

- 肉牛出荷頭数の増加
 - ・ 規模拡大、後継者育成、新規参入者、新規企業参入の確保

経営体質の強化

- 繁殖肥育一貫経営の推進（地域内、経営内）
 - ・ 繁殖牛の公共育成牧場への預託
 - ・ 生産性の向上（肥育期間の短縮など）

ブランド化の推進

- 高品質牛肉の安定生産
 - ・ 優秀な肥育素牛の確保（県内保留）
 - ・ 肥育技術の向上・「4」等級以上比率向上
 - ・ 定時、定量、定質出荷への組織的な取り組み
- 特長ある牛肉の生産（安心、安全や特長をアピール）
 - ・ 県内で生まれた子牛を県内で肥育
 - ・ 生産履歴（飼料、投薬等）の積極的な情報提供
 - ・ 「鳥取和牛オレイン55」の増産のための取り組み
- 全共での優秀成績獲得による鳥取和牛のブランド化
 - ・ 受精卵、雌雄判別精液の活用による効率的な候補牛生産
 - ・ 短期肥育技術の向上

関係機関のサポート

全農県本部・JA全農ミートフーズ鳥取営業所等

- 家畜市場が主導する子牛生産・販売体制
 - ・ 交配雄牛の選定、出荷子牛の斉一化
 - ・ 子牛の飼育管理（離乳、粗飼料給与など）の統一
 - ・ 「和牛の保育園」や受精卵移植等による増頭対策の実施
- 牛肉販売協議会による鳥取和牛のブランド化強化
 - ・ 「鳥取和牛オレイン55」の地元・首都圏・関西圏への販売強化
 - ・ 県内や県外（首都圏・関西圏など）でのPRと指定店の拡大
 - ・ 地域団体商標登録の取得

農協

- 営農指導員による生産技術支援
 - ・ 優良雌牛の導入・保留指導
 - ・ 肥育技術の指導
 - ・ 子牛の有利販売のための適正交配指導、子牛の育成管理指導
 - ・ 農場HACCPの推進
- 受精卵移植による和子牛生産の推進
 - ・ 和牛繁殖農家と酪農家の連携強化
- 各地域和牛振興計画の実践

家畜人工授精師協会

- 農家への交配指導
 - ・ 市場性の高い子牛生産
 - ・ 種雄牛造成への協力（基礎雌牛への計画交配、現場後代検定の試験種付け）

鳥取県畜産推進機構

- 和牛登録協会業務の充実
 - ・ 県内雌牛の能力分析（育種価、分娩間隔など）と生産現場への応用・指導
 - ・ 和牛改良組合、育種組合の組織強化
 - ・ 農協、県と連携した全共指導体制の構築と整備
- 肉用牛振興に係る補助事業等の支援
 - ・ （独）農畜産業振興機構等の行う補助事業の推進

県及び市町村

- 生産者、関係団体と連携した和牛振興策の検討
 - ・ やらいや和牛プロジェクト会議、鳥取県和牛改良委員会、若手生産者の会（繁殖、肥育）
- 公共育成牧場における乳用育成牛への受精卵移植の拡大（移植頭数350頭⇒950頭へ増加）
 - ・ 受精卵業務の畜産振興協会への集中化（ET車、採卵場の整備、高能力雌牛の整備）
 - ・ 乳用牛への和牛受精卵移植の拡大対策の検討・実施
- 後継者の育成、新規参入の促進
 - ・ 雇用、研修、就農、企業進出への支援
- 全国トップレベルの種雄牛を造成
 - ・ 優良遺伝子領域や脂肪酸育種価等の新技術を活用した種雄牛造成
 - ・ 他県との協力による優秀な種雄牛造成
- 肉質、旨み等の研究促進
 - ・ オレイン酸向上のための飼養技術の開発やオレイン酸含有率生前診断法の確立
 - ・ アミノ酸組成分析と熟成を活用した美味しい和牛肉の評価方法の開発
 - ・ エピジェネティクス等の新技術を活用した高能力牛生産技術の開発
- 技術指導者の養成
 - ・ 先進地研修などによる能力向上（繁殖管理、子牛育成、受精卵移植）
- 生産性を阻害する様々な疾病の清浄化
 - ・ BVDやBLVといった対応困難な疾病の清浄化を果たすための体制の確立と支援策の構築

IV 目指す和牛産地の姿（平成35年目標）

～ 全国に誇れる「和子牛」、「和牛肉」を生産する鳥取県 ～

1 地域農業を支える和牛繁殖経営

- ・ 全共で優秀な成績を収めることによって、高い産肉能力と優れた育成技術のもと生産された鳥取県産の和子牛が市場で評価され、高値で販売される。
- ・ 飼育規模の大きな専業の和牛繁殖農家、米、野菜などとの複合経営の和牛繁殖農家に加え、酪農家と和牛繁殖農家、公共育成牧場が連携した乳用牛への受精卵移植によって、子牛生産頭数が安定している。
- ・ 転作水田、遊休農地を有効に活用して和牛放牧、自給飼料の生産が行われ、畜産経営の安定とともに耕作放棄地の増加を防ぎ、農地の保全管理に役立っている。

2 特産品としてブランド化される鳥取和牛

- ・ 全共で優秀な成績を収めることによって、高品質の和牛肉が安定的に出荷され、「鳥取和牛」が高品質ブランドとして高く評価される。
- ・ 肉牛の出荷頭数が増加し、高品質ブランドとして地元・首都圏・京阪神市場へ定時・定量出荷される。
- ・ 県内の小売店などで広く販売されるとともに、特産品として旅館、ホテルで観光客に提供される。
- ・ 高品質で安心・安全なこだわりの「鳥取和牛」が消費者に高く評価される。

3 生産者、農業団体、行政が一体となった和牛振興

- ・ 和牛改良組合が主体となった優秀な雌子牛を確実に県内に保留する仕組みによって、繁殖雌牛が計画的に更新されている。
- ・ 県内産子の多くが県内で肥育され、母牛の産肉能力と子牛の育成技術の向上に結びついている。
- ・ 酪農家、和牛農家、公共育成牧場の密接な連携によって、和牛の受精卵移植（ET）が定着し、産子が子牛市場で高く評価される。
- ・ 家畜市場が主体となって、農協、生産者とともに子牛の有利販売に取り組んでいる。
- ・ 繁殖農家、肥育農家、関係団体の協力の下、優秀な県有種雄牛が造成され、広く県内で利用される。

4 目標数値等

★和子牛生産頭数の増加	2,500頭 → 4,000頭
和牛繁殖雌牛頭数	3,000頭 → 5,000頭
和子牛セリ価格	全国平均以上
★肉牛出荷頭数の増加	3,600頭 → 5,000頭
	肉質等級「4」以上の割合の向上 51% → 80%
	県内産子牛の県内肥育の推進 36% → 50%
	鳥取和牛オレイン55発生頭数 300頭 → 1,000頭
★ブランドの確立	県内での販路拡大（鳥取和牛指定店の増加）
	手頃で美味しい「鳥取和牛」の安定供給
	県内外での銘柄確立
	安心・安全に加え、おいしさの基準を持つ「鳥取和牛オレイン55」

V 展開方向

1 産肉能力、繁殖能力の改良

(1) 全国トップレベルの種雄牛造成

① 現 状

- ・ 「勝安波」に続く全国トップレベルの県有種雄牛がない。
(子牛市場のうち県種雄牛産子が20%以下(H20年)→19%以下(H24年)と利用低迷。)
- ・ 県子牛市場価格が全国平均価格を下回っている。
- ・ (H20年価格差: △16千円/頭→H24年価格差: △25千円/頭)
- ・ 多様な種雄牛の産子が出荷され子牛の斉一性がない。

② 取組内容

- ア、県外導入牛や県内の優良雌牛から採卵し、受精卵移植によって確実に種雄候補牛を確保
少数精鋭の優良雌牛利用や確実に雄子牛を産ませる雌雄判別技術の応用により、選抜
の精度を高めて種雄牛造成のスピードアップを図る。
- イ、現場後代検定の協力体制の強化
若い雌牛を使った後代検定のための試験種付けを推進。
- ウ、(社)家畜改良事業団との連携による種雄牛造成(H21年度から実施)
県内の繁殖雌牛頭数が少ないことが円滑な現場後代検定実施の隘路になっているこ
とから、(社)家畜改良事業団との連携により県外の雌牛を利用して検定を的確かつ効率
的に実施。
- エ、他県との協力による種雄牛造成
県内の飼養頭数、精液の限定的な利用では種雄牛造成に限界がある。他県との連携で
優秀な精液、種雄候補牛、雌牛を活用し、全国トップレベルの種雄牛を造成する。
- オ、優良遺伝子領域の検索、脂肪酸(オレイン酸など)育種価による種雄牛造成

(2) 農家の所有する雌牛の改良

① 現 状

- ・ 優良雌子牛の県外流出。
- ・ 繁殖雌牛の計画的な更新が進んでいない。
- ・ 優秀な雌子牛を計画的に保留する取り組みが弱い。

生産者の声

- ・ 雌牛の能力をさらにアップさせる必要がある。
- ・ 優秀な雌子牛の県外流出を防ぐことが急務である。
- ・ 導入・保留事業を継続してほしい。

② 取組内容

- ア、県内雌牛の能力分析の推進(育種価などデータ分析と生産現場への応用)
- イ、県外から優良な雌子牛を計画的に導入
- ウ、県内産の優秀な雌子牛を確実に県内に保留
- エ、計画的交配の推進による後継牛の生産
- オ、受精卵移植を活用した優良雌牛の生産(受精卵業務を集中化する畜産振興協会への高能力雌牛の整備)

2 生産基盤の拡大・強化と経営体質の強化

(1) 繁殖雌牛、子牛出荷頭数の増加

① 現状

- ・ 伸び悩む規模拡大、及び後継者不足。
(H24年：10頭規模以下68%、農家の70歳以上比率39%)
- ・ 早期離乳、飼料給与など子牛の育成技術が統一されていない。
- ・ 子牛生産に対するリーダーシップ役が不在。
- ・ 受精卵産子生産頭数の頭打ち (H21年：640頭→H23年：446頭)

生産者の声

- ・ 小さい規模の複合経営も産地を支える担い手なので支援が必要。
- ・ 就農するために規模拡大したいが設備投資の負担が大きい。(若手)
- ・ 放牧を指導できる技術者が不足している。
- ・ 全県的な若手の意見交換の場がほしい。
- ・ 受精卵移植技術者を育成し、受胎率を向上させてほしい。
- ・ 受精卵産子の哺育育成技術が普及していない。
- ・ 白血病、BVDなどへの罹患が心配

② 取組内容

- ア、経営の安定した大規模繁殖経営体を育成
- イ、高齢者、女性にも飼育できる和牛繁殖の特長を生かした小規模経営体の定着
- ウ、和牛繁殖経営への新規参入を促進(雇用、研修受け入れ等)
- エ、若手を中心とした全県的な組織の立ち上げ
- オ、和牛放牧の推進(公共育成牧場の利用、耕作放棄地の活用)
- カ、乳用牛への和牛受精卵移植拡大(受精卵業務の畜産振興協会への集中化、キャトルステーションなど集約的子牛育成施設の推進)
- キ、新規企業参入の確保
- ク、生産性を阻害する疾病(白血病、BVDなど)の清浄化を果たすための体制確立と支援策の構築

(2) 肉牛出荷頭数の増加

① 現状

- ・ 伸び悩む肉牛出荷頭数 (H21年：4,054頭)。
- ・ 格付け上位の枝肉が揃わない。
- ・ 肥育技術の指導体制が弱い。
- ・ 肥育素牛を県外市場に依存している。
- ・ 全県での組織的な取り組みができていない。

生産者の声

- ・ 畜舎整備、個人施設に補助してほしい。
- ・ 増頭した場合の堆肥舎に補助してほしい。
- ・ 新規就農は困難な状況なので、既存農家の規模拡大を推進すべき。(若手)

③ 取組内容

- ア、融資や補助事業を活用した規模拡大

- イ、雇用、研修、就農への支援による後継者の育成と新規参入の促進
- ウ、地域肥育部会の組織強化
- エ、先進地研修などによる肥育技術の向上
- オ、営農指導員の肥育技術指導の強化
- カ、若手を中心とした全県的な組織の創設

(3) 経営体質の強化

① 現 状

- ・ 景気、消費動向等により、枝肉価格・子牛価格が大きく変動。
- ・ 長期的な生産コストの低減対策による所得確保が必要。

生産者の声

- ・ 公共育成牧場での和牛放牧を推進してほしい。
- ・ 増頭、省力化の手段として放牧を活用したい。
- ・ 経営の安定化のためにトウモロコシサイレージを作りたい。(若手)

② 取組内容

- ア、公共育成牧場や水田及び耕作放棄地を活用した和牛放牧の推進
- イ、飼料稲や飼料米、トウモロコシなど自給飼料の生産拡大
- ウ、繁殖肥育一貫経営の推進
 - 繁殖部門の放牧利用、肥育期間の短縮や事故率低減等生産性の向上

3 鳥取和牛のブランド化の推進

(1) 特長ある高品質和牛肉の安定生産

① 現 状

- ・ 出荷頭数が3, 600頭/年と他産地と比較して少ない。
- ・ ブランド化できる高品質牛肉が揃わない。

消費者の声

- ・ 全共まで鳥取和牛の存在を知らなかった。もっとPRしては？
- ・ 和牛は美味しいが、高くてなかなか手がでない。
- ・ 地元で食べられるお店を紹介してほしい。
- ・ 地元のスーパーに置いていない。
- ・ 生産農場を見てみたい。
- ・ 「鳥取和牛オレイン55」を食べてみたい。どこで食べられるか。
- ・ 和牛ブランドの数が多く、違いがわかりにくい。

販売業者の声

- ・ 他の大きな産地にできない生産者の顔の見える戦術が望ましい。
- ・ 高品質牛肉のブランド化の他、手頃な和牛肉の販売拡大も必要。
- ・ 「鳥取和牛オレイン55」の頭数が少なく、手に入らない。

② 取組内容

- ア、県内保留による優秀な肥育素牛の確保
- イ、先進地研修などによる肥育技術の向上
- ウ、生産履歴（飼料、投薬等）の積極的な情報提供
- エ、定時・定量・定質出荷への組織的な取り組み

オ、安心安全による差別化（農場HACCPの推進）

カ、「鳥取和牛オレイン55」増産への取り組み（素牛の確保、生産者の意識啓発（研修会など）、飼養管理技術開発）

キ、県内や県外（首都圏、関西圏など）でのPRと指定店の拡大

- ・ 地産地消の推進
県内の指定店（販売店や飲食店）の拡大
定期的なイベント開催やふれあい体験ツアーの実施
 - ・ 首都圏、関西圏でのPRと販売強化
県内業者の首都圏、関西圏で販路拡大・強化（支援策を検討）
食のみやこ鳥取プラザ等でのフェア開催
民間業者を主体としたアンテナショップの開設（関西圏、首都圏）
長野県、大分県とのオレインさん国同盟といった他県との連携によるPR
 - ・ 新たな流通ルートの開拓
県産品販売友好店等との提携による系列店での定番商品化
 - ・ 観光との連携
県内ホテルや旅館と提携した観光商品開発
 - ・ テレビCM放映等によるイメージの発信
- ク、新たな特長を持った「新鳥取和牛」の開発
- ・ 美味しい和牛肉の開発

（2）地域団体商標登録制度を活用したブランド化

① 現 状

- ・ ブランドの基準が曖昧で、県内肥育和牛肉は「鳥取和牛」としている。
- ・ 農協や生産者により販売がバラバラで、一貫した体制が無い。
- ・ 県内外へのアピールが不足し認知度が低い。

② 取組内容

ア、地域団体商標登録の取得

鳥取和牛の認知度を向上

県内向けの手頃な「鳥取和牛」の販売を後押し

（3）ブランド力向上に向けた全共対策

① 現 状（第10回全国和牛能力共進会）

- ・ 総合成績は第7位で種牛の部第6区で優等賞3席、肉牛の部第9区で優等賞6席。
- ・ 全共の位置づけが以前と大きく異なり、全共で優秀な成績を収めることはブランド化への第一歩となっている（例 宮崎牛、飛騨牛）。

生産者の声

- ・ 素牛作りとして、受精卵を活用し、候補牛を多くする等で、牛が選定できる体制作りをお願いしたい。
- ・ 雌雄産み分け精液の利用の検討も必要ではないか。
- ・ ひとつづくりが大切。団結力や指導員の育成も重要。
- ・ 若い生産者が全共出品の取り組みに向けて意欲がでてきている。

② 取組内容

ア、高能力候補牛を確保

- ・ 受精卵移植技術、雌雄判別精液の活用による候補牛生産

- ・ 県外からの繁殖雌牛導入支援

イ、出品技術対策の強化

- ・ 先進地研修、技術研修会（調教など）による技術向上
- ・ 地域協議会、関係団体が連携した指導体制の強化